

整理番号	34-1	事務事業名	下水道(雨・污水管)整備事業	作成部署	水道部下水道課	電話	内線884	
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	赤沼正三	課長職名	笠原 昇	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度	S45	根拠法令等	下水道法第3条					
事務事業終了予定年度								
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	道営北広島団地の開発を契機に昭和45年(1970年)事業着手して以来、市街地における浸水防除と快適な生活環境の確保を図るため、市街地を順次事業区域に編入して事業を進めてきた。							

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力のあふれるまち	(第 5 章)
	節	下水道とし尿処理	(第 6 節)
	施策	施設の整備	(第 1 施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市街化区域内における、宅地及び公共施設。	
	意図(何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	雨水:雨水を迅速に処理し、浸水防除と快適な生活環境を確保するため。 汚水:市街化区域内に居住する市民の快適で衛生的な生活環境や河川等公共用水域の水質保全を図るため。	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等)の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	雨水:雨水排水事業認可面積1594.0haの内、これまで1216.8haを施工済。 汚水:汚水処理事業認可面積1594.0haの内、これまで1557.4haを施工済。
		17年度	雨水:大曲地区と共栄の一部を延長420m(管径250~1650mm)施工を予定。 汚水:大曲及び輪厚を延長210m(管径200mm)施工を予定。

2 実施(ドゥ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金	109,941	110,403	16,500	42,900
	道支出金	0	0	0	0
	地方債	114,893	129,164	81,300	113,000
	一般会計繰入金等	11,836	12,611	5,200	8,900
	下水道使用料	0	0	0	0
	合計	236,670	252,178	103,000	164,800
人件費(概算)	人数(年間)	1.00	1.00	1.00	1.00
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	9,000	9,000	9,000	9,000
総事業費 +		245,670	261,178	112,000	173,800

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値				
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)	
活動指標(事務事業の活動量や実績)	雨水管延長(管径)	628m ( 600~1800mm)	674m ( 300~1800mm)	420m ( 250~1650mm)	389m ( 250~600mm)	
	污水管延長(管径)	0m	0m	210m ( 200m)	297m ( 200m)	
	成果指標(目的の達成度を測るものさし)	雨水排水面積整備率	76.29%	76.34%	76.41%	76.44%
	汚水排水面積整備率(整備済面積/事業認可面積)	97.70%	97.70%	97.75%	97.76%	
効率指標(主要活動単位当たりコスト)	m当り整備コスト	392千円	388千円	178千円	254千円	

### 3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	国民のすべてが豊かさを実感できる社会が求められるなか雨水管整備は浸水を防ぎ、また、污水管整備は衛生的で快適な生活環境づくりには欠くことのできない施設である。このように下水道はナショナルミニマム(最低限必要とされるべき水準)の施設と認識され、多くの市町村において下水道等の整備が進められている。道内においても多くの市町村が、快適な生活環境の実現を図るため整備を進めている。
---------------------------------	---

#### 【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	雨水管は都市基盤整備に、污水管は快適で衛生的な生活環境づくりには欠くことのできない施設であり、市が計画的に整備を進めていく必要があるため。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	雨水施設は浸水防除を図るためであり、污水施設は河川等公共水域の水質保全を図るためであり、ともに快適で衛生的な生活環境の確保という目的は適切である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	現在の人員配置により、適切に対応している。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	汚水の負担金の額については、区域ごとの事業費から設定している。	

#### 【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	雨水管布設により浸水防除や環境改善が図られており、污水管布設により快適で衛生的な生活環境と公共用水域の水質保全が図られている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	雨水管は道路整備と合併工事で行っており、工事期間の短縮や経費の節減になっている。ただし、污水管については整合性が取れない場合がある。また、開発行為等については、関係者と協議し開発者負担で施設整備を行っている。	

#### 【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A      B      C

### 4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	雨水施設は工事期間の短縮や経費の節減のため、道路整備と合併工事で施工しており、今後ともできる限り継続していく。污水施設は河川等公共用水域の水質保全や、快適で衛生的な生活環境の確保を図るため事業を推進していく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり、今後とも建設コスト縮減を図る。